

平成24年度大阪府立旭高等学校第2回学校協議会

- 1 日時 平成25年1月18日（金）
午後2時30分から午後4時30分
- 2 場所 大阪府立旭高等学校校長室
- 3 協議会委員（敬称略）

会長	関西大学文学部ドイツ学専修 教授	佐藤 裕子
委員	大阪市立旭陽中学校 校長	中西 洋
委員	平成24年度旭友会 副会長	島田 修子
委員	平成24年度大阪府立旭高等学校PTA会長	野田 剛（欠席）

内 容：

教員の授業その他の教育活動に関する保護者からの意見は1月18日現在 e-mail、郵送、専用箱への投函のいずれにも無く、協議は以下の2点。

協議題1 学校教育自己診断の結果と分析について

《●協議会委員の意見等 ▼学校側説明等》

- ▼本年度質問項目の一部変更について（質問項目と結果は本校HPに掲載）
- ▼保護者の回答者数の増加から学校への関心は高まっていると思われる。
「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合について生活指導の方針に共感、将来の進路や職業などについての適切な指導を約6割認めてもらえている。行事の充実に対して高い評価がある。
しかし、「授業がわかりやすく興味深いと子どもは言っている」に対して34%「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる」47%である。保護者からの相談に関してご意見を伺いたい。
- 保護者が相談するにはどのような方法があるのかを明示しなければならない。
- 自分の子どもが在学中は担任の先生に気軽に相談していた。気軽に相談できるかどうかは担任の先生によって異なるのではないか。
- 保護者と学校のパイプを確保することも大切である。それと同時に学校内で子どもたちが人間関係からはずれないよう見守ることが大切である。
高校生が相談するのはやはり友だちが多いと思う、友だちのなかで子どもたちが成長していける人間関係を保つことが大事である。
- ▼学校生活の満足度について、全体は74%、1年生67%、2年生71%、3年生84%と学年を追って高まっている。学年ごとの特徴もあるが、高校生活を通して満足感が深まっていくのは良いことであり、大切にしたい。

学習時間については0時間の生徒は昨年より減り、2時間以上勉強する生徒の数も増えているが、0時間と30分を合わせると51%となる。このことが授業での満足度とも関係するのではないか。

- 1年生は慣れる段階であり、学年での経年変化を今後分析する必要がある。
- 勤務する中学校では学年にばらつきがありこのように明確な傾向は見られない。旭高校では個性を発揮して認められる場が学校全体にあるのではないか。生徒が旭高校に何を求めているかを見て行くことが大事である。
- ▼2年生を指導して、行事、クラス、クラブの活動を通して学年ごとに成長して生徒が伸びる場面を実感している。ただ現在危機感を持っている。今年も昨年も「現在アルバイトをしていない」75%であるが、2年生については60%であり、週3日以上アルバイトをしているものが78人もいる。進学費用準備のために頑張っているものもいるが、多くの者は携帯代等のためであり、こういう状況で高校生としての生活が維持できるとは思えない。
- 中学校では生活習慣を支えることが必要な生徒が多い。旭高校に入学する生徒の多くは生活習慣を基礎にして家庭学習の確立が必要なのではないか。勉強させるのにどのような方法で手助けできるかがポイント。
- 家で勉強する時間が無い場合授業での学習が定着せず、実力がつきにくい。そして、自分は何がわからないのか、欠けているものは何かに「気づく」ことが重要である。家庭学習の大切さはそこにある。大学では自分で分からないことに気づく力こそが次にどうすればいいかという取組みに繋がっていく。
- ▼保護者が旭高校のどこに注目しているかは昨年とほぼ同じである。
進路実績 27.5% 国際交流活動 26.4% 生徒会活動や行事 20.8%
教育方針 19.1%とバランスの取れた高校生活への期待があるのではないか。
- 旭高校出身の学生を大学で見ると確かにバランスがとれた学生が多い。
- ▼高校の次に子どもが行きつく所をどこにするかが問題であると思う。
進路実現、自己実現がたいせつであり、自分の選んだ大学に行けるか、進路結果も含めて満足できるかが問われるのだと思う。
授業改善にも取り組んでいるが、わかりやすいだけの授業でよいのだろうか。
家庭学習の習慣をつけることも重要である。
- 勉強とはプロセスであり、「きづき」とわかろうとするプロセスである。
そこに向かって努力する習慣が必要である。
- ▼保健部として防災訓練の時期や内容を検討しより定着する訓練にしたい。
保護者に多く参加してもらい学ぶ場をもっと提供したい。
相談に関しては、学校というところはさまざまな受け皿が必要であり、問

題を持つ生徒が孤立しないよう各教員がいろいろなアプローチで生徒支援に取り組むことが必要である。

現在も課題を抱える生徒は保健室に相談にきている状況である。

協議題 2 広報に関する提言（旭の強みは何かを考えながら）

▼平成 24 年度の広報状況について

大阪府公立高校進学フェアが新たに開催された。

各説明会等への参加者数は少し増加

説明会の担当教員の確保が課題

旭高校全教員の中学校訪問は本年度も終了、今年度は平成 26 年度からの学区撤廃を見据えた新たな中学校を訪問

オープンスクールへの参観者数は昨年度よりさらに増加

- 過去に寝屋川高校での説明会に参加した。やはり家の近くでの説明会が行きやすかった

中学校にはってもらうポスターを作成してはどうか。

生徒の笑顔とか国際交流の様子を大きく紹介してはどうか。

▼国際交流の状況（別紙）

- 旭高校の特徴の一つといえる国際交流の状況とその広報が十分おこなわれていることはよくわかる。質量ともに高く、国際理解の授業で行われている点は評価できる。

- 小学校から英語を学ぶ時代です。英語学習や国際交流等で小中校の連携を今後深めていきたい。

- 国際交流が盛んであることはよくわかる。次の段階として国際交流の先にあるものは何かをしっかりと見据える必要がある。

▼一人の例から世界を考える人材が今育ちつつあると言える。

- 国際交流も含めて旭高校のイメージは次のような生徒である。

バランスがとれていて行動力がある、可能性がある、リーダーシップがとれる、コミュニケーション能力がある。

- 旭の生徒は伸びる素養があり磨けが光る生徒たちである。家庭学習のできないままの生徒を高校でどう伸ばすかが問われる。